

深発見 歴史文化 遺産

こつみせんたい

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

第拾参回 パンデミック、戦乱…健康と平和の願いよ届け！ 天平SDGS(薩摩国分寺)

「天平」という時代

聖武天皇の名を聞いたことがある方も多いと思いますが、東大寺の大仏造立を命じたことで有名な天皇です。

聖武天皇の在位中は、全国的に疫病や災害が多発し、人々の生活はとて大変でした。特に天平年間(729年~749年)は疫病、内乱、大地震などが相次ぎ、多くの命が失われました。

天平パンデミック



▲海朝の武威痘鬼神を退く図 (新形三十六怪撰1)

天平7年~10年(735年~738年)、全国的に流行した天然痘は、推計100~150万人の死者を出したといわれています。これは当時の人口の25

~30%に当たり、どれほどの脅威だったか想像を絶します。

聖武天皇の行動

このような状況から聖武天皇は、天平13年(741年)に、全国に国分寺・国分尼寺建立、天平15年(743年)に盧舎那仏(いわゆる大仏)造立の詔を発するなどして、社会不安の収束を図りました。

薩摩国の国分寺は本市国分寺町にあり、発掘調査で塔や建物の跡、創建時の瓦などが発見されました。



▲薩摩国分寺跡出土の瓦 (上) 軒丸瓦 (下) 軒平瓦

現在は、史跡公園として園児・児童の遠足、ウォーキングなど市民の憩いの場として活用されています。また、隣接する川内歴史資料館に展示される薩摩国分寺推定復元模型を見て、天

世界中でさまざまな危機に直面している現代。天平の時代にあった危機に対する行動と本市の関わりを紹介します。

平の世に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



▲国指定薩摩国分寺跡史跡公園



▲薩摩国分寺推定復元模型

天平から学ぶこと

令和の現在も、新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、自然災害や世界各地で紛争も絶えません。聖武天皇が社会不安の収束を願ったように、全ての人が健康で平和に暮らせるために、私たちに何ができるのかを考え行動に移してみたいかがでしょうか。

■文責・問合せ 社会教育課文化財G(中央公民館内) ☎(22)7251 ※パンデミック=感染症が世界的な規模で流行すること。

「マチイロ」ご存じですか？

本市では、各自治体の広報紙を閲覧できるアプリ「マチイロ」でも、「広報薩摩川内」をお届けしています。

●マチイロの便利な機能

- ・バックナンバーを含む「広報薩摩川内」や「薩摩川内市議会だより」を、お手持ちのスマートフォンなどから手軽に見られます。
- ・登録した広報紙などの最新号が発行されると、アプリからお知らせが届きます。
- ・簡単にページを拡大・縮小し、見やすいサイズに変更できます。
- ・広報紙の他、市のホームページなども分野に絞って、分野ごとに情報を入手できます。

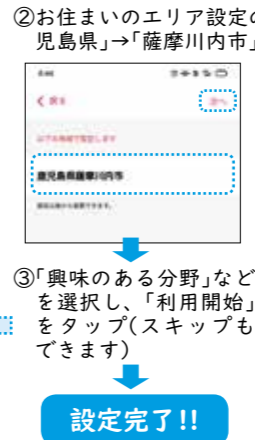
ぜひ、ご利用いただき、外出先でも広報紙をお楽しみいただくとともに、市外に住む家族やお友達にもご紹介ください。



※アプリのダウンロード、利用は無料ですが、通信料は自己負担となります。 ※アプリ内に表示される広告は、本市とは無関係であり、その内容には責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

「マチイロ」のダウンロード方法

- ①下の二次元コードを読み込んでダウンロードし、「はじめる」をタップ
- ②お住まいのエリア設定のため、「九州・沖縄」→「鹿児島県」→「薩摩川内市」→「次へ」の順にタップ
- ③「興味のある分野」などを選択し、「利用開始」をタップ(スキップもできます)



「広報紙追加」(画面右上)から登録することで、お住まい以外の自治体の広報紙を読むこともできます。

※スキップした「興味のある分野」などは、メニュー画面(右下)で後から設定できます。

設定完了!!

問合せ先/本庁秘書広報課 企画総務・広聴広報G(内線4122)

人のとなりに

おおくほ 志煌さん

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てていくことを目的としています。

2023 かがしま総文

第47回全国高等学校総合文化祭は、全都道府県開催の一巡目を締めくくる記念すべき大会です。7月29日(土)~8月4日(金)の期間中、総合開会式やパレードに加え、19の規定部門と3つの協賛部門の発表が開催されます。

吟詠剣詩舞

吟詠剣詩舞とは、漢詩や和歌を独特の節回しで吟じる「吟詠」と、剣を用いて舞う「剣舞」、扇を用いて舞う「詩舞」を総称した日本の伝統芸能です。



好奇心で

川内商工高等学校のインターア科に通い、生徒会活動も行いながら、軽音楽部に属するなど、積極的に動くことが好きな大久保さん。かごしま総文にも興味があり、どうにかして携わりたいと考えていたところ、学校で配布されたチラシで吟詠剣詩舞の実行委員を募集していることを知り、委員会に入りました。

その後、実行委員長の選出では、大久保さん自ら立候補しました。「吟詠剣詩舞を知っていたわけではありませんでした。本市で開催されたプレ大会を見て初めて知り、舞台を目にした時は、始まった瞬間に切り替わる緊張感や迫力を感じ、同じ高校生がすごくかっこよく見えたんです」

実行委員会としての具体的な活動は4月から本格的に始まるそう。現在は吟詠剣詩舞を深く知るため勉強中とのこと。

みんなにも知ってほしい

今後は、大会の進め方を企画したり、レクリエーションをしたりして、参加者の皆さんと共に、吟詠剣詩舞の魅力を伝えられるような大会にしたいと話すと大久保さん。「実行委員のほとんどが吟詠剣詩舞について知るところから始めるため大変ですが、3年くらい新型コロナウィルス感染症の影響で、行事などが中止となり、久しぶりに大きな大会が県内各所で開催されるため、ぜひ足を運んでみんなに楽しんでもらいたい」と意気込みます。

「実行委員長である自分は、あいさつ回りなど人前に立つ仕事が多い反面、他の実行委員は表に出ない準備を行うことが多いです。そのように見えないうところで頑張る仲間たちと同じよ



鹿児島ではあまり知られていない吟詠剣詩舞ですが、その裏では、大会を支える高校生や役員の方々が一生懸命活動しています。



▲友達と楽しそうに話す大久保さん(右から2番目)

1977年から各都道府県が持ち回りで開催する高校生による芸術文化活動の祭典が今年も鹿児島県で開催され、本市でも吟詠剣詩舞と書道の発表が行われます。

そこで今回は、吟詠剣詩舞部門の生徒実行委員長を務める高校生の思いに寄り添います。